

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2017年10月22日（日）

主 題：「あなたの常識、大丈夫ですか」

—生きた信仰—

テキスト：ヘブル人への手紙11章4～7節

はじめに

- ・私たちは日々の生活で、いったい何を基準にしているのでしょうか・・・。
多くの方は「**自分の常識**」ではないかと思います。常識というものは、その人がそれまでにいろいろなものから得た知識や経験によって形成されます。
- ・ですから、本人は自分の常識について、かなり自信があっても、偏っていることは否めません。時には自分の常識が他人には、非常識と理解されることもありますね。
- ・私たちは、それぞれが自分の常識を基準にして物事を判断すると、失敗するのは当たり前だとも言えましょう。そこで何が大切なことかと言えば、すべてを正しくご覧くださる神のご意見に基づいて判断することです。それ以外には誤りのない判断はないということ、まず知る必要があります。
- ・では、神のご意見はどういうものでしょうか。
聖書は次のように教えています。
11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。
神の御心に従って人生を送った人は、失敗を未然に防ぐことができ、人生の成功者として生涯を全うすることができました。
- ・世間では、「人生の成功者」という言葉を聞きます。そのほとんどは人生の成功者ではなく、この世の成功者であり、名声を遂げた人々のこと
(誤解しないでください。この世の成功者が悪いと言っているのではない)。聖書が教える人生の成功者とは、神に喜ばれる人生のことです。それは信仰によって生きることです。
- ・聖書は、信仰を持てばビジネスに成功することも教えています。しかし、一方ヨブのように、大試練に遭いながらも、最後に多くの財産と名声を得た人もいます。また信仰によって生きたために、殉教の死を遂げた預言者ゼカリヤやステパノのような人もいました。聖書はそのどちらも神に喜ばれた人生を送ったと教えています。⇒ それは信仰を持って生きたからです。
- ・ですから信仰によって生きるならば、この世において成功したかどうかは、神の前では小さなことです。信仰によって生きる人は、だれでも人生の成功者なのです。そこで、ヘブル人への手紙の著者は、まず信仰によって生きた3人の人を取り上げています。それはアベルとエノクとノアです。では、その3人の成功者の生涯を考えてみましょう。

大切なポイント

1. 神は真に礼拝する者を祝福される

11:4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だとあかししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。

- アベルは、最初の人アダムとエバの子どもの一人で、弟の方です。彼も兄のカインも、神に捧げ物を捧げましたから、2人には宗教心があったと思われます。捧げ物をささげるとは、礼拝行為であります。
- ところで、宗教的であることと、信仰的であるということは、必ずしも同じではありません。捧げ物をしているから、信仰的とは言えません。私たちはカインとアベルの出来事を、他人事として聞き流さないようにしたいと思います。
- 創世記4章を開くと、兄カインは農夫でした。彼は自分の作っていた作物を捧げ物として持ってきました。それに対して、弟のアベルは羊飼いでした。自分の飼っている羊を捧げ物として持ってきました。ここまで、捧げ物を持ってきた点では同じでした。しかし神は、弟アベルの捧げ物を受け取られました。それによって、兄カインは自分の捧げ物が神に受け入れなかったため、弟を殺害してしまいました……。人類初の殺人事件が起きました。
- 皆さん。普通、私たちがこの箇所を読むと、なぜ神はカインではなく、弟アベルの捧げ物を受けとられたか疑問を持ちます。兄も同じように捧げ物を持ってきました。しかし神は、アベルの方の捧げ物を受け取られました。
- その理由の第一は、神が農作物ではなく動物の犠牲を受け入れられたことにあります。そして第二に、アベルの信仰姿勢がそこにあったからでした。
- 2人の捧げ物についてよく見ると、カインの方はただそれを持ってきたとしか書かれていません。アベルの方は、羊の初子を、しかも最良のものを自分自身で持ってきたと記されています。
- このことから分かることは、カインの場合にはあまり誠意を感じられないのに、アベルの場合は誠心誠意礼拝しているということです。この手紙の著者は、「信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼が義人であることの証明を得ました。」(11:1)と言いました。
- カインの農作物の捧げ物も捧げ物ですが、アベルの方が「カインよりもすぐれたいけにえを神にささげた」とあります。農作物は再び作ることは、可能です。しかし羊という動物には血が流れ、一度屠られたら、再生は不可能です。ですから血(命)は、一番貴重な捧げ物と言えます。神はそれを求められました。神への捧げ物は、それほど大きな犠牲が求められたということです。ここに罪の赦しのために捧げられた御子イエスによる、「捧げもの」が暗示されているようです。

- ・礼拝姿勢というものは、日ごろの生き方がそこに表れるものです。いつも神の前に生きている人は、礼拝する時もそういう礼拝でしょう。いつもしていることは、自然に出るからです。
- ・もし、適当な信仰生活をしているとするならば、どんなに礼拝出席に熱心であったとしても、心から礼拝しているわけではありません。ただ、礼拝という形式的なものにすぎないでしょう。
- ・礼拝においても、神とお会いすることがなく、神に変えていただくこともありません。神が喜ばれる礼拝者は、日頃の礼拝姿勢が問われます。アベルは、神に受け入れられる礼拝をしていました。それは日頃信仰によって生きていたからでした。ヘブル人への著者は言いました。
- ・「**彼(アベル)死にましたが、その信仰によって、今もなお語っています。**」 (11:1)
アベルの信仰は今もなお語っていると、聖書は教えています。
- ・神はアベルのような礼拝者を祝福されるお方です。

2. 神は神と共に歩む者を祝福される

11:5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていきました。

- ・次に登場するのはエノクです。エノクは創世記 5 章で、アダムの子孫の中に登場する人物です。そこで、皆「生まれた、そして死んだ」で終わっていますが、エノクだけは違っています。創世記

5:24 エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった。

- ・ヘブル人への手紙では、次のように書かれています。

11:5 信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていきました。

- ・じつに不思議な人物でした。創世記 5 章の系図を見ると、ほとんどの人が 900 歳ぐらいまで生きました。しかしエノクは 365 歳という以外に短い人生であったことが分かります。創世記は、エノクは「**神とともに歩んだ。**」、つまり神との信仰生活を過ごした人でした。ヘブル人への手紙では、「**エノクは死を見ることのないように移されました。**」と教えており、それは「**信仰によって**」生きたからだと言っています。
- ・皆さん。これらのことから教えられることは、長寿を全うした人々が最後に死んだのに対して、短命であったエノクが「死を見ることのないように、天に移された」のは、決して不幸ではなかったということではないでしょうか。そして、「神とともに生きる信仰深い生活」のすばらしさを教えていると思います。
- ・信仰によって生きたエノクは、じつに謎の人です。
信仰によって生きた人として 3 人目に取り上げられているのは、ノアです。

3. 神は従順な者を祝福される

11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬのです。

11:7 信仰によって、ノアは、まだ見ていない事柄について神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。

1) ノアの従順

- ・ノアが生きていた時代は、どんな時代であったかは、創世記 6 章に書かれています。

創世記

6:10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。

6:11 地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。

6:12 神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。

- ・その時、ノアはその時代の人々の中であって、彼らの悪に染まらず、神にのみ心を向けて生きていました。つまり、いつも神と共に生活していました。

6:9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。

- ・そこで、神はノアに対して、まもなく世界中の人々を滅ぼす洪水を起こさせると言われました。しかし、ノアとその家族の者たちを救うので、大きな船を造るように言われました（その船が「ノアの箱舟」と呼ばれる）。

・ {箱舟の紹介}

1 キュビト（手先から肘まで）を何センチにするかによって寸法は異なりますが、平均してその舟は長さ約 150m、幅約 25m、高さ約 15m で、1 万トン級の大きな舟でした。彼はそれまで、そんな大洪水を経験したこともありませんでした。舟を造ったこともありませんでした。そんな 1 万トン級の舟を造るということになれば、この先何年かかるか、まったく気の遠くなるような話しでした。

- ・しかし彼はそのみ言葉を信じ受け入れたのでした。皆さん！ 今日のように電気ノコがある時代ではありません。どのようにして大木を切り倒したのでしょうか。ノアと 3 人の息子の 4 人だけで造ったとしても、1 万トン級の舟を造るには、おそらく 120 年はかかったと言われます。

- ・創世記 6 章には次のようにあります。

6:3 主は言われた。「わたしの霊は人の中に永久にとどまるべきではない。人は肉にすぎないのだから。」こうして、人の一生は百二十年となった。

ここが人間の寿命の記録という説もあります。120 年も要したとは、気が遠くなるような大仕事です。ノアは信仰によって、それに挑戦したのでした。

- たとえ常識では考えられないようなことでも、ノアは主の言葉をまともに受け止めました。それが信仰なのです。きっと来る日も、来る日も、山へ行き、1本の木を切るのに何日も掛かったでしょう。生活のための仕事をせず、舟造りばかりしていた彼らを見ていた人々は、おそらく嘲笑したことでしょう。生活はどうなっているのか、気が狂ったのではないかと人々は思ったことでしょう。
- 聖書は次のように記録しています。
6:22 ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行なった。
 たとえ自分の常識の枠の中には、納まらないことでも、神のみ言葉に従うのが信仰であり、神に喜ばれる道なのです。

2) 神のみことばを宣べ伝えた

- もうひとつ大切なことは、ノアは人々の嘲笑の中で箱舟を造ることだけに専念したわけではありませんでした。彼は信仰によって、世の人々に警告を発しました。そして神のみ言葉を宣べ伝えました。
- 当時も世界は神の前に非常に墮落していました。もう一度創世記6章を読みましょう。
6:11 地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。
6:12 神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。
- イエス・キリストは終わりの時に、もう一度来られると語られました。そして、その日は次のような状態であると言われました。**ルカ福音書**
17:26 人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日が起こったことと同様です。
17:27 ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、めとったり、とついたりしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。
- 私たちはみ言葉を語っても、聞く耳を持たない人には対しては、あきらめてしまいやすいものです。しかし、ノアはそれをやり続けました。それにもかかわらず、それに耳を傾けなかったがために、ノアと彼の家族8人以外の人々は洪水によって滅ぼされてしまいました。聖書は語ります、
11:6 信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。
- 「**神に近づく者**」は、神が生きておられる存在であること知ることができます。つまり神を体験する者です。Experience your God!(神を経験しなさい) 信仰は最後は体験によらなければ、本当に自分のものとはなりません。したがって恐れることなく、神の約束のみ言葉に自分をかけることです。それが信仰です。その人が人生の成功者、勝利者として生きることができるのです。
- 私の常識に従って生きるのではなく、神のご意見に従い生きることこそ大切です。

ま と め

主 題：「あなたの常識、大丈夫ですか」

—生きた信仰—

- ・ヘブル人への手紙の著者は、今日のテキストで神から祝福を受けた 3 人の聖徒を取り上げました。3 人には共通項がありました。⇒「信仰によって」生きた人生であったことです。
- ・今日、私たちは次の 3 点を学びました。
 1. 神は真に礼拝する者を祝福される
 2. 神は神と共に歩む者を祝福される
 3. 神は神に従順な者を祝福される

* God bless you!